

えんがわ

第43号

2010年10月発行

発行元
衣笠病院グループ
横須賀市小矢部
2-23-1
TEL 046-852-1182

ネパール国 医療協力 派遣に参加して

衣笠病院グループでは、理念実現のために海外医療派遣が実施されています。二〇〇八年十二月、日本キリスト教海外医療協力会の榎戸健次郎先生のご協力を頂き、ネパール調査団として三名の派遣が行われました。その翌年、二〇〇九年十二月に六名の医療協力派遣団が組織され、その中の一人として、私も参加させて頂く事になりました。派遣先は、首都カトマンズから約百キロ、車で四時間の所にあるラムジュン病院です。活動内容は、外来診療、手洗い講習、掃除、洗濯などです。手洗い講習では、現地のスタッフが二十名近

く集まり、興味深げに講習をうけてくれました。また、派遣員が掃除を始めると周りが一緒に手伝ってくれたことが、とても印象的でした。私は、初めての海外ということもあって戸惑いと不安がありました。現地の人とふれあう中で元気を頂いたような気がします。日本とは違う環境で二週間に行った事は、自分にとって、かけがえのない経験ができたと思っております。また、榎戸先生の全面的なご協力のもとで医療派遣活動が無事に終えることが出来ました。事に感謝いたします。

衣笠病院
医事課長 小越 光宏

えんがわ在宅 ひとくちわ 脳が喜ぶことを やってみよう!

『夢中になる』『挑戦する』『結果を手にして喜ぶ』
『こういう回路を働かせることが脳にはとても大切なことです。これが、脳にとって最高のメンテナンスになるのです！』

小さい頃は無意識が自然に外に表れますよね。『わあ、おもしろい！』『何でこうなるの？』しかし、大人になるにつれ、それが抑制されてくるのです。脳のために、無意識になる機会を与えてあげなければなりません。

それには、小学校の頃の記憶が良いと脳科学者は言います。小学校の時に書いた日記を読み返すことにより、その時に感じていた思いを蘇らせるのです。見た

こと、経験したことに対する素直な思いを、今ここで再び噛み締めるのです。『自分の無意識にアンテナを伸ばす』それを実現できる手がかりが、自分が残した過去の記憶というのは興味深いことです。また、声を出す、言葉を使う、指先を使う、といった日常の動作は、実は脳の高度な機能によってなされており、脳が喜ぶ行動は身近な生活の中にあるのです。皆さんも是非、自分の脳を喜ばせてあげましょう！

衣笠病院
リハビリテーション技術科
技師長 安部 剛央

暑い夏がやつと過ぎた気がします。なんと、今年の冬は寒いという天候の予想です。せめてちようど良い秋を堪能したいものです。

